START!

JR埼京線 板橋駅

1分

①近藤勇の墓 [北区滝野川7-8-10]

慶応4年(1868)、流山で捕らえられた新撰組局長の近藤勇は、当時板橋宿に置かれていた新政府軍の本陣に送られ、その後処刑されました。このお墓はその近く、現在の板橋駅東口前に立てられています。

16分

②加賀公園 [加賀1-8]

江戸時代、このあたり一帯には加賀藩前田家の下屋敷があり、その広さは21万7千坪余りにものぼりました。この公園は屋敷内庭園にあった築山の跡です。明治から終戦までは、この地に火薬を製造する板橋火薬製造所(東京第二陸軍造兵廠板橋製造所)がありました。

8分

③東光寺 [板橋4-13-8]

室町時代の創建と伝わる浄土宗寺院です。境内には、青面金剛のみごとな彫刻がほどこされた寛文2年(1662)の庚申塔や、江戸時代に平尾一里塚上にあったと伝わる石造の地蔵菩薩座像、明治時代になって板橋に移り住んだ子孫が建てた戦国時代の武将宇喜多秀家の供養塔があります。

3分

④観明寺 [板橋3-25-1]

室町時代の創建と伝わる真言宗寺院です。本尊の聖観音立像は12世紀頃の作と考えられています。境内には、寛文元年(1661)の庚申塔や、加賀藩下屋敷から遷されたといわれる稲荷社と赤門があります。

1分

⑤平尾宿脇本陣跡 [板橋3-15]

板橋平尾宿の脇本陣豊田家の屋敷跡、豊田家は代々市右衛門を世襲し、名主も兼ねました。近藤勇が処刑までの間監禁され、また、江戸時代に見世物となったベルシャ産のラクダが逗留したこともあります。

1分

⑥板橋三丁目縁宿広場 [板橋3-5]

1分

⑦いたばし観光センター [板橋3-14-15]

3分

⑧遍照寺 [仲宿40-7]

5分

⑨板橋宿本陣跡 [仲宿47-10]

代々新左衛門を世襲した本陣飯田家の屋敷跡です。参勤交代で通行した大名や幕府の公用の武士、僧や公家などが休憩しました。

2分

⑩文殊院 [仲宿28-5]

江戸時代前期、延命地蔵を祀るお堂を寺院としたと伝えられている真言宗寺院です。本尊の文殊菩薩坐像は寛文年間(1661～1673)の作と伝えられています。板橋宿本陣を勤めた飯田家の菩提寺で、墓地には、飯田静の墓や宿場の飯盛旅籠の一つ「大盛川」の墓などがあります。

2分

⑪中宿脇本陣跡 [仲宿54]

代々宇(卯)兵衛を世襲し、板橋宿中宿の名主を務めた脇本陣飯田家の屋敷跡。幕末には14代将軍家茂へ降嫁する和宮が宿泊し、また明治初年に大宮氷川神社に行幸する明治天皇が休憩しました。

3分

⑫板橋 [本町28-29] 十景

旧中山道が石神井川を渡る地点にかけられた橋で、板橋区の地名の由来といわれている橋です。

4分

⑬縁切榎 [本町18]

江戸時代から板橋宿の名所として名高かったのがこの縁切榎です。「悪縁は切ってくれるが良縁は結んでくれる」と言われ、庶民の信仰を集めていました。

3分

⑭智清寺 [大和町37-1]

7分

⑮日曜寺 [大和町42-1]

都営三田線 板橋本町駅

GOAL!

中山道～中山道と中仙道

中山道を通っていると、標識に中山道と中仙道と書いてあるものがあることに気がつきます。どちらが正しいのでしょうか。そのむかし、初めて中山道六十七次が定められたときには「仙」と「山」、特に統一されていませんでした。正徳6年(1716)、当時の学者・新井白石が道中奉行に命じて、五街道の呼称について指示を行いました。それによると「東海道は海岸を通るから海道でよいが、中山道は東山道のうちの中筋の道であり、古来、東山道、山陰道、山陽道と読んでいるから中仙道は適切でなく、今後は山の字を使用するように」とあって、その後は中山道と書くようになったのです。従って、歴史的には公式に中山道と書くようになったと言われています。

中山道1番宿:板橋宿
題名:木曽街道　板橋之驛　作者:渓斎英泉
中山道広重美術館所蔵
この絵は現在のJR板橋駅付近です。

「いたばしのむかしばなし」より～縁切榎と身禄さん

元禄時代のおわり頃、伊勢国(三重県)に生まれた伊藤身禄という人がいました。志をたてて江戸へ出てきて精一杯働き、奥さんと3人の娘と本郷(文京区)で幸せな日々を送っていました。ところが、身禄さん、子供のころから、富士の浅間様を深く信仰していまして、自分は大きくなったら富士山に北側からの登山口を切り開いて富士山の上で死のうという願をたてていました。そこで心を鬼にして、家を捨てようと決心して家族を振り切るように家を出ました。奥さんは3人の娘の手を引き「おとうさーん、おとうさーん」と呼びながら後を追い、とうとう板橋宿の上宿(本町)まで来てしまいました。困った身禄さんは、道ばたに生い茂った大木の木かげの橋のらんかんに奥さんと娘さんを腰掛けさせ、最後の別れをしました。ここで別れた身禄さんは、決心したとおり、富士の北口(吉田口)から登山道を切り開いて、富士山頂で亡くなりました。のちにこの大木のえのきの木を「縁切榎」というようになり、下を流れる中用水を「おんだし川」、また妻子を腰掛けさせたらんかんのある橋を「なみだ橋」というようになったといわれています。

「いたばしの歴史に残る50人」より

植村直己(うえむら なおみ)

写真提供:文藝春秋

昭和16年(1941)～同59年。冒険家。兵庫県生まれ。同40年に外国に出発し、世界の山々に登る。同43年に帰国し区内仲宿に暮らし始め、その後結婚。同53年に、世界初の北極点単独到達を達成。同59年、厳冬期のマッキンリーに世界初の単独登頂後、消息を絶つ。歴代4人目の国民栄誉賞受賞。

石神井川の桜並木 十景

花見の頃になると川の上流から下流まで1,000本を超えるサクラが咲き誇る区を代表する桜の名所になっています。川沿いに歩いていくと、江戸時代から桜の名所と知られる北区の飛鳥山まで桜並木が続いています。春の一日、桜を楽しむには最適です。

圧磨機圧輪記念碑

明治9年(1876)に完成した陸軍砲兵廠板橋火薬製造所で用いられました。幕命によりオランダに留学していた沢太郎左衛門が帰国の際にベルギーで買い求め持ち帰ったものです。この記念碑は実際に石神井川の水を利用して火薬製造に使われていた実物で、大正11年(1922)に陸軍省が設置したものです。

所在地　加賀1-10　加賀西公園内

いたばしボローニャ子ども絵本館

区と交流のある北イタリアのボローニャ市から寄贈された世界約85か国・2万5千冊の絵本が見られます。ヨーロッパ、アメリカ、アジア、アフリカなどのさまざまな国や地域の絵本を揃えている、全国的にも珍しい絵本館です。

所在地　本町24-1
開館時間　10時～17時
休館日　月曜(祝日の場合は直後の平日)、月末日、年末年始
電話　03-3579-2665

東京家政大学博物館

常設展では国の重要有形民俗文化財に指定されている渡辺学園裁縫雛形コレクションをはじめ学園の歴史や創設者の紹介コーナーの他、食の変遷などの展示をしています。年に2回、春と秋に開催される企画展では、様々な角度から生活文化に関わりのある展示をします。

所在地　加賀1-18-1
開館時間　9時30分～17時(土曜日は12時まで)
入館料　無料
休館日　日曜日、祝日、展示替期間、年末年始
電話　03-3961-2918